



414  
A 537



政府ノ責任ニ於ケル覺

一千八百七十七年十一月二十九日  
盧石ヨリ下問ヲ尋ナフセシ簡條  
ノ第四号ニ依ケル應答

大正十一年四月  
大隈侯爵郵密

余ノ下問ヲ辱ナフセシ事件ハ政府ニ對シテ願請スルニ通常手  
續ヲ以テスルヲ禁スルハ英國古昔ノ習慣法ノ一部ニ出ツルヤ  
或ハ憲法ニ出ツルヤ如何ナリ  
英國古一リ既ニ疑團ヲ此貴問ノ議論ニ貽セリ然レモ五百年間  
ヲ回顧スルニ其政府ニ對シタル願請ハ實ニマナシコンオノラ  
イトニ非ナレハ法ハ是レ其通常キタル唯々之ノ設置  
ル法方ニマシマルノ一考察スルニ當リテ其通常式タル實



實務 此上ヨリ 決定セ  
 此也ノ手續ハ事 由リ  
 此法律タル其基源 布告文ニ取ル 或ハ然ラサルニ  
 ハス其 固ヨリ一國ノ憲法ニ随テ定マサル可クナリ  
 輒近右ホノ事件 在テ法官尚ホ簡單ナル手續ヲ設ケリ  
 此事タル猶又々近時ノ取扱上ニ適當シテ其簡便ナル數百年  
 間施行セシ古法ノ比ニ非サルナリ  
 此手續タル即チ余ノ覺書ニ於テルベテシオフ  
 續ヲ簡約ニ論述セシハ蓋シ源 布告文ニ取  
 此手續ニ付テ貴下若ク好ハ所マハ件ヲ逐テ遺漏ナ  
 論ハル丁固ヨリ余ノ喜ニ借マサル所ナリ  
 事件ニ付テ進メ敷考レ且ツ余ヲレテ之レヲ論セシメント  
 欲セハ余レ 歩テ進メ全論ヲ盡クシ立法ニ至ルベキ言論ノ

トカ カニカ

精微ヲ探

ロベルトゴードン

